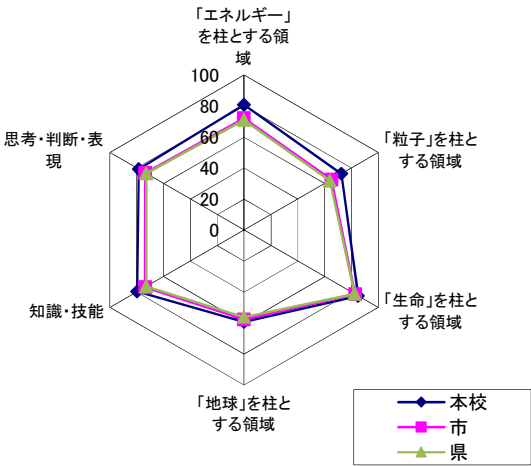


宇都宮市立錦小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	80.8	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	72.5	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	85.0	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	59.2	57.7	56.2
観点	知識・技能	79.6	73.8	72.8
	思考・判断・表現	78.4	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	・平均正答率は、県や市の平均正答率より高い。 ○実験の結果から風がものを動かすはたらきの変化を読み取る問題の正答率は79.6%で、県の正答率を20.6ポイント上回っている。 ○磁石に引き付けられるものについて理解しているかどうかみる問題の正答率は95.9%と高く、県の正答率を5.4ポイント上回っている。	・身近な物を用いて実験したり、映像を見せたりして、できるだけ体験的な学習を行い、事物の現象への理解を深められるようにする。 ・実験を行う際に、児童全員が用具に触れることができるようにし、実験用具の正しい使い方を定着できるようにする。 ・実験後のまとめでは、児童自身が考察する時間を確保し、さらに全体で話し合って結果をまとめることで、科学的な思考の育成を図る。
「粒子」を柱とする領域	・平均正答率は、県や市の平均正答率より高い。 ○粘土は形を変えても重さは変わらないことを理解しているかどうかみる問題の正答率は91.8%で県の正答率を5.1ポイント上回っている。 ○同じ体積でもものの種類によって重さがちがうことについて表と関連付けて考える問題の正答率は53.1%で、県の正答率を12ポイント上回っている。	・実験を行う前に、実験の目的をしっかりとっておきて、児童一人一人が予想を立てる活動を重視し、思考力を伸ばしていく。 ・粘土、木、金属などの様々な実験材料を用意し、一人一人の児童が実際に実験で扱えるようにする。
「生命」を柱とする領域	・平均正答率は、県や市の平均正答率よりやや高い。 ○植物の体のつくりについて考える問題の正答率は100%で、県の正答率を5.8ポイント上回っている。 ○植物の一生について差異点や共通点を見い出すことができるかどうかをみる問題の正答率は91.8%で、県の正答率を6.0ポイント上回っている。 ●記録カードを比べて生き物の差異点や共通点を見い出す問題の正答率は63.3%で、県の正答率を13.0ポイント下回っている。	・植物や昆虫の育ち方について、実物や映像を見ながら確認し、いろいろな生き物の育ち方について理解できるようにする。 ・植物や昆虫を観察して記録し、差異や共通点について話し合い、理解を深めることができるようにする。 ・昆虫の学習については、野外での観察活動を重視しつつ、1人1台端末などのICT機器も有効に活用する。
「地球」を柱とする領域	・平均正答率は、県や市の平均正答率よりやや高い。 ○太陽が動く方位を理解しているかどうかをみる問題の正答率は65.3%で、県の正答率を10.1ポイント上回っている。 ●方位磁針の使い方を身に付けているかどうかみる問題の正答率は42.9%で、県と同等となっているが正答率が低い。	・方位磁針の使い方については、デジタル教科書やICT機器などを活用して使い方のポイントをおさえるとともに、一人一人が実際に方位磁針を手にして活動する時間を十分に確保する。 ・実際に屋外で1日のかげの動きを観測し記録する際、方位磁針で方位を調べたり、太陽はかげの反対にあることを確認したりして、太陽の動きについて理解できるよう支援する。